

ASEAN 大使通信

第 31 回 ジャカルタ・プロセス

2025 年（令和 7 年）6 月 30 日



日 ASEAN 合同協力委員会（AJJCC）

（2025 年 6 月 26 日、於 ASEAN 本部事務局、ASEAN 事務局提供）

クアラルンプールで ASEAN 首脳会議と関連会議が開催された 5 月最終週は、ジャカルタから ASEAN 事務局幹部と ASEAN 各国常駐代表が大挙して出張し静かでした。翌週の 6 月には皆ジャカルタに戻り、いよいよ ASEAN 年間サイクルの「後半戦」が始まりました。

6 月初頭に開催された ERIA 運営理事会と関連会合は、皆が顔を合わせる機会となりました。翌週はマレーシアのペナンで ASEAN 高級実務者会合（SOM）と関連会合が開催され、私も他の EAS 参加国大使と現地に出張しました。ジャカルタに戻った後は、ASEAN+3 大使会合（CPR+3）、EAS 大使会合（EAS Group）、日 ASEAN 合同協力委員会（AJJCC）・公邸レセプションと大事な会合が続き、来月の ASEAN 関連外相会議やその後に向けての準備を進めました。今月は、日 ASEAN 科学技術協力委員会（AJCCST）も当地で開催されました。

ASEAN 関連首脳・閣僚会議や各種 SOM 会合は ASEAN 議長国はじめ各国で開催されますが、準備作業の多くはこのようにジャカルタで行われます。今回の大使通信では、6 月に開催された諸行事をご紹介しながら、この「ジャカルタ・プロセス」の意義について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



ERIA と ERIA 加盟国・対話国大使との会合
(2025 年 6 月 5 日、於 ASEAN 本部事務局)

●ERIA 大使会議

6 月 5 日、[東アジア ASEAN 経済研究センター（ERIA）の年次理事会](#)が開催されました。会場は ASEAN 本部事務局の新館大講堂（ヌサンタラホール）で、日本からは ERIA 理事を務める榊原定征経団連名誉会長が参加しました。この機会に、[ERIA 理事・事務局と ERIA 加盟国・対話国大使との会合（ERIA 大使会議）](#)も通例通り開催され、私も [2022 年](#)、[2023 年](#)、[昨年](#)に続き出席しました。

ERIA からは、ERIA 理事会議長と ERIA 事務総長、[ASEAN 事務総長](#)の冒頭挨拶に続き、ASEAN 議長国マレーシアの優先事項に対する ERIA の貢献について報告がありました。参加各国からは、ERIA のこれまでの ASEAN 及び東アジア地域等における調査・研究の成果や政策提言等の貢献への評価、今後のさらなる活躍に対する期待について発言がありました。ASEAN 以外の多くの国からは、自国の ERIA への貢献にも言及がありました。

私からは、ERIA の近年の実績を評価するとともに、ERIA が各国の国内政策と ASEAN の目指す方向性をつなぐ役割を担っていくこと、そして今後 ASEAN 以外の地域・機関と連携を深めていくことへの期待について[発言](#)しました。

前日に開催された ERIA・豪 ASEAN 代表部共催ラウンドテーブルや歓迎夕食会でも多くの関係者に会い、ERIA への支持と期待の広がりを実感しました。



東アジア首脳会議（EAS）高級実務者会合（SOM）
（2025 年 6 月 10 日、於ペナン）

●ASEAN 関連高級実務者会合（SOM）

6 月 9 日から 11 日まで、ASEAN 議長国マレーシアのペナンで、[ASEAN 高級実務者会合（SOM）](#)と関連会合が開催されました。毎年この時期に、ASEAN 関連外相会議を準備するために開催される会合で、「春 SOM」と呼んでいます。日本は ASEAN+3、東アジア首脳会議（EAS）、ASEAN 地域フォーラム（ARF）の SOM 会合に参加しており、今回は柏原裕南部アジア部参事官・ASEAN 協力担当大使が日本の SOM 代行として団長を務めました。

6 月 10 日午後に、海沿いにある会場ホテルの大会議室で [ASEAN+3 SOM](#) と [EAS SOM](#) を開催、晩は近くのレストランに移動して歓迎夕食会（名物のドリアンが振る舞われました）、翌 11 日午前には [ARF SOM](#) を開催という密度の濃い日程です。前後や合間に各国のバイやマルチの会談が次々と開催されます。

今回、マレーシア SOM のアムラン外務次官の議長のもと、地域・国際情勢や幅広い分野での協力推進について様々な議論が行われました。私自身、出席した各国の立場について理解を深め、大いに勉強になりました。



ASEAN+3 大使会合（CPR+3）
（2025 年 6 月 19 日、於 ASEAN 本部事務局）

●CPR+ 3

6 月 19 日には ASEAN+3 大使会合（CPR+3） が開催されました。ASEAN 側からは常駐代表委員会（Committee of Permanent Representatives /CPR） が参加するので、このように呼ばれています。

ASEAN+3 の枠組みは、1997 年のアジア金融危機を契機に立ち上がりました。その後、首脳・外相会議のみならず、金融分野、農業分野をはじめ幅広い分野で ASEAN+3 の大臣会合が開催され、対話と協力が進められています。また、ASEAN+3 協力基金による共同事業を実施していることも大きな特色です。

昨年 5 月の日中韓サミット開催により、日中韓側共同議長が韓国から日本に引き継がれました。このため、今回の会合の共同議長は AESAN 議長国マレーシアのサラ常駐代表と私が務めました。ASEAN 側からは ASEAN+3 協力の今後の重点分野について様々な意見が出され、大変有意義な会合となりました。



東アジアサミット（EAS）大使会合
（2025 年 6 月 25 日、於 ASEAN 本部事務局、ASEAN 事務局提供）

●東アジア首脳会議（EAS）大使会合

6 月 25 日、[東アジア首脳会議（EAS）大使会合（EAS Group）](#)が開催されました。この会合は、長い間 EAS Ambassadors' Meeting in Jakarta（EAMJ）と呼ばれていたのですが、ASEAN が EAS の機能強化の一環としてこの会合を制度化して正式名称を付すことを提案し、2023 年に EAS Group となったものです。

年 3 回開催で、今回は 3 月に続き 2 回目です。[EAS 行動計画 2024-2028](#) の実施状況を確認し、7 月の EAS 外相会議の準備や 10 月の EAS 首脳会議の成果文書について議論しました。地域・国際情勢についても意見交換を行いました。

私からは、EAS 協力は、インド太平洋の主要国が ASEAN を中心に包摂的で透明性がある建設的な協力を推進する貴重なプラットフォーム、そしてインド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）協力を推進する場であり、この観点から日本として具体的な協力を推進していると表明しました。

例えば、日本は豪州・中国と[本年 9 月の模擬 EAS 開催](#)を支援しています。EAS 参加国と東ティモールから大学生 60 名がジャカルタに集まり、成果文書交渉や交流を行う予定です。7 月 11 日の応募締切まで多数の応募を期待しています。



日 ASEAN 合同協力委員会（AJJCC）後のレセプション
（2025 年 6 月 26 日、於大使公邸）

●日 ASEAN 合同協力委員会（AJJCC）

翌 6 月 26 日には、日 ASEAN 合同協力委員会（AJJCC）が開催されました。日本を含む 11 の [ASEAN 対話国](#)は、毎年 1 回、[ASEAN 側調整国](#)と共催で、合同協力委員会（JCC）をジャカルタの ASEAN 本部事務局で開催しています。ASEAN 側は、在ジャカルタの ASEAN 各国の常駐代表（[常駐代表委員会（CPR）](#)のメンバー）と東ティモール ASEAN 代表部大使、ASEAN 事務次長（政治安全保障共同体担当）が出席します。

今回の AJJCC では、私とジェラード・シンガポール ASEAN 常駐代表が共同議長を務めました。ASEAN 事務局から、2023 年の日 ASEAN 友好協力 50 周年記念首脳会議で採択された共同ビジョンステートメント実施計画の進捗状況について、関係省庁や分野別会合からのインプットをとりまとめたマトリクスの説明があり、私から補足説明を行いました。また、日本から[日本アセアンセンター](#)の平林国彦事務総長、[国際交流基金](#)の下山雅也理事も出席して、各々の活動を報告しました。ASEAN 各国の常駐代表からは、実施の進捗状況を踏まえ、今後の協力に向けての様々な要望が出されました。

同日晩、私とジェラード常駐代表の共催 [レセプション](#)を大使公邸で開催しました。日本と ASEAN 加盟国・事務局のみならず対話国や関係機関からも数多く参加しました。冒頭挨拶で今回の会合の結果を報告した後、日本とシンガポールの料理を味わいながら交流を深めてもらうことができました。



ASEAN 科学技術大臣会合前レセプションで
カオ・キムホン ASEAN 事務総長、橋本和仁 JST 理事長と
(2025 年 6 月 19 日、於インドネシア国立研究イノベーション庁 (BRIN))

●ジャカルタ・プロセスの役割

日本関連では、6 月 20 日にジャカルタで開催された ASEAN 科学技術大臣会合 (AMMSTI) で、[日 ASEAN 科学技術イノベーション協働連携事業 \(NEXUS\)](#) の開始が科学技術振興機構 (JST) の橋本和仁理事長から正式発表されました。前日には[日 ASEAN 科学技術協力委員会 \(AJCCST\)](#) が開催され、[SATREPS](#) や [STI 調整プラットフォーム構築・人材能力開発 \(JAIF 事業\)](#) など最新の取組が報告されました。

以上ご紹介したとおり、マレーシアやインドネシアなど ASEAN 各国で分野毎の大臣・SOM 会合が開催される一方、ジャカルタの ASEAN 本部事務局では ASEAN 常駐代表委員会 (CPR) を中心に様々な会合・行事が開催されています。私を含め各国常駐代表・大使は、週 2～3 回はお互い顔を合わせています。

ASEAN 関連首脳会議・外相会議をはじめとする ASEAN 主導枠組みによる協力は、このような「ジャカルタ・プロセス」によって支えられています。私も ASEAN 代表部大使として代表部の同僚とともに、日本と ASEAN、そして地域と世界のために、このプロセスにしっかりと貢献していきたいと思います。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦